

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308-2
自己評価作成日	平成26年6月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して間もなく6年が経ちます。入居者様の状態も年々変化してきました。職員の関わり方にも変化がみられます。皆さんと一緒に楽しんで頂けるというのが中心だった関わりが、今は個人個人その性格もニーズも違うのだから、個人個人を見つめて関わっていくという方向に変化しています。入居者様が一番喜ばれるのは、外に出る事です。今年は外出支援に力を入れています。その方法は色々ですが、ご本人の望みや状態を考慮して、計画をたて実施しています。又個人を大切にしていますが、皆さんで過ごす時間も大切にしたいと思っています。今年の夏には、初めての夏祭りを開催します。手作りのお祭りですので、どうなるやらでも頑張って、ご家族・地域の方々にも来て頂き、皆で楽しみたいと思います。少しずつですが、いろんな事にチャレンジして、入居者様が笑顔で、きらきら光って暮らして頂ける様に、頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は、「地域の方達が気軽にお茶を飲みに来てくれるようなホームをつくりたい」と考えておられる。「地域に事業所のことを知ってもらえるように」今年度は、事業所主催の夏祭りを開催することを目標に挙げて、8月2日に行うことを決めておられた。運営推進会議のメンバーでもある区長と相談して、回覧板でも案内を回していただけるようになっている。
 今年度から外出支援に力を入れており、事業所全体での外出や利用者個別の外出計画を立て取り組みをすすめておられる。利用者によっては、好きなカラオケにご夫婦で出かけられるよう支援している事例もある。又、化粧品や洋服を買いに個別に出かけることもある。
 居間には、職員手作りの「そうめん流し」のイラスト入りポスターを掲示して、利用者が楽しみに待てるように話題に挙げて話をされていた。毎月の勉強会は、職員が持ち回りでそれぞれが関心あることをテーマに行われている。職員が外部研修で勉強して来て発表したり、町主催の研修で学んだこと等も報告されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 26年 6月 23日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員は、理念を意識し、日々のケアを行っている。泣き笑いを共に分かち合い、一人一人の利用者を理解できるように努めている。	
			(外部評価) 開設時、法人代表者が、「私たちは、ひとりひとりのきらりと輝いていた時代を大切に、泣き笑いを共に分かち合い、今またきらりと輝ける暮らしを支援し応援いたします。」と、事業所理念をつくっておられ、パンフレットや玄関に明示されている。半年ごと行われる面談時には、法人代表者が、職員個々に「理念を知っているか」等、確認されている。	理念は、ケアに取り組む上で、立ち戻る基本的な考え方でもあり、すべての職員で共有して実践につなげていくことが大切である。法人代表者や管理者は、日々の中でも理念を職員に具体的に語り、けん引していかれてほしい。さらに、利用者をチームで支えていけるよう、ご家族や地域の方々にも事業所理念を知ってもらえるよう、取り組まれてはどうだろうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の奉仕活動や、消防避難訓練等では参加・協力があるが、日頃気軽に、地域の方が施設に来られる事はない。その為、今年の夏には、夏祭りを開催し、地域の方々にも来て頂き、繋がりを持てるように努めたい。	
			(外部評価) 管理者は、「地域の方達が気軽にお茶を飲みに来てくれるようなホームをつくりたい」と考えておられる。「地域に事業所のことを知ってもらえるように」今年度は、事業所主催の夏祭りを開催することを目標に挙げて、8月2日に行うことを決めておられた。運営推進会議のメンバーでもある区長と相談して、回覧板でも案内を回していただけるようになっている。近所の方がスモモやピワをおすそ分けしてくれたり、近くの散髪屋を利用する等されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議においては、認知症について話し合う機会もあったが、地域の中では出来ていない。問いかけや相談があれば、出来る限りの対応をしたいと思っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 救命救急の訓練には、推進会議の委員と共に、職員も参加し、交流が持てた。会議においては、委員からも質問や意見もあるが、参加者が限られてきており、今後の課題と考える。</p> <p>(外部評価) 会議には、地域の区長や民生委員、老人クラブ会長、歌のボランティアの方、ご家族代表が一名参加されており、敬老会や懇親会、救急救命法の研修等と併せて行っておられる。会議時には利用者の状態やヒヤリ・ハット、事故報告を行っており、事業所の現状や課題等について話し合うこともある。会議メンバーから介護職員を紹介してもらったこともある。</p>	<p>事業所では、会議にご家族の参加を増やしたいと考えておられる。会議参加につながるよう、参加できないご家族にも会議内容を知ってもらうような取り組みをすすめてみてはどうだろうか。事業所周辺地域はひとりで暮らす高齢者が多いようであり、会議を通じて、地域の中での事業所の役割等についても話し合ってみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、担当者の出席がある。何か問題や疑問が生じた時には、相談し、その都度対応して頂いている。25年の10月にはあいなん生き生き推進会議があり、町と協力し取り組んだ。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月ごとに町内のグループホームの管理者が集まる連絡会が行われており、地域包括支援センターの担当者も参加されている。連絡会では、各事業所が抱えている課題等を話し合ったり、徘徊ネットワークの仕組みの必要性等についても話し合ったことがある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間のみ防犯の為玄関に施錠している。介護時や入浴時には身体の変化がないか観察し、少しの変化も気付く様に努めている。又ヒヤリや事故報告の出た事例については、カンファレンスで話し合い、防止策をあげ、拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 職員会時、利用者のケア等について話し合う際には、法人代表者が身体拘束の知識について話し、拘束しないケアについて検討できるよう導いておられる。転倒の心配がある利用者には、ご家族と相談して、居室にマットや布団を敷いて休めるよう対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないと思いケアを行っている。カンファレンス等で、他所での事例等を取り上げ、虐待防止の意識付けを行っている。ただ親しくなったために、言葉が馴れ馴れしくなっている事があり、気をつけないといけない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解できている者は少ないと思う。勉強不足。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々のケアの中から、利用者の意見や要望をくみ取るように心掛けている。家族からの意見は、推進会議や訪問に来られた時、電話連絡により聴き、出来るだけ要望に応えられるように努めている。 (外部評価) 遠方に住むご家族とは関係が希薄になりがちだが、毎月ご家族へ送付する書類に、時々写真を同封して利用者の様子を見てもらえるよう取り組まれている。利用者それぞれに担当職員が配置されており、変更があればご家族の来訪時にあいさつして紹介されている。運営推進会議に参加されているご家族は、玄関周りのお花の管理等をしてきており、利用者の状態等もみて日中の過ごし方や外出先等についても、具体的に提案して下さる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			カンファレンスにおいて、職員の意見・提案を聴き、個別の面接の機会にも色々と話を聞いている。全ての意見を聞き入れる事は難しいが、建設的な意見は出来るだけ、取り入れる様にしている。	
			(外部評価)	
			居間には、職員手作りの「そうめん流し」のイラスト入りポスターを掲示して、利用者が楽しみに待てるように話題に挙げて話をされていた。毎月の勉強会は、職員が持ち回りでそれぞれが関心あることをテーマにして行われている。職員が外部研修で勉強して来て発表したり、町主催の研修で学んだこと等も報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			半年に一度の業務の自己評価・リーダー評価・管理者評価・社長評価とそれぞれに面接を行い、仕事の努力・実績の把握をし、意欲の確認に努め、個々からの意見も聞き、今後の処遇・現場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			月に一回の勉強会は持続しており、法人としても研修会に参加させている。また個人でも、休みを利用して、研修会に参加するものも増えてきた。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			2か月に1回の管理者の集まりはある。今年に入り、愛南町感染対策研修会が開かれ、その場で同業者との交流が持てるようになった。今後もこの様な交流の場を設けていきたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			申し込みがあり、本人に訪問に行く際には、居宅からの情報も参考にしながら、本人に会い改めて、本人の困っていること・望むこと・思いを聴き取れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っている事・不安な事・求められていることをよく聞き、先ず必要としている支援を見極めながら、これからどのようにしていくか、話し合い受け止める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設利用開始と共に、今までのサービスの継続確認をし、対応を相談、出来るだけ要望に沿えるように努めている。又その時々々の心身の状態を把握できるように、多くの声掛け等を行い、馴染の関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事はして頂き、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかける事によって、お互いが助け合う関係であることを意識している。又一緒に食事を摂ったり、外出をして生活を共にする事により、一つの家族として、安心して過ごして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 敬老会等への行事への参加や、介護計画の見直しの為の相談、日常的にも変化があれば、その都度連絡をとっている。面会に来られた時には、今の状態を報告し、希望や意見も伺い、共に本人を支える気持ちで行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望に沿った、受診は勿論、理・美容院も希望があれば、対応している。又自宅近くへのドライブや墓参り等も行った方もいるが、家族の拒否等で、出来ない方もいる。面会等も含めて、家族へのアプローチが、関係継続の一つの鍵と思う。 (外部評価) 利用者の状態から、「もう最後になるかもしれない」と、ご自宅に戻ってみることを支援された事例がある。利用者は近所の知り合いにも会えて、涙を流して喜ばれたようだ。事業所では、利用者のご家族の絆を深めるような取り組みに工夫したいと考えており、来月の夏祭り時には、ご家族もお誘いして一緒に楽しい時間を過ごしてもらいたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話や態度から、利用者同士の関係を把握し、トラブル等が起きそうな時は、職員が介入し、大きくならない様に努めている。仲の良い方同志で、散歩やドライブに行き、楽しさを感じて頂き、孤立しそうな方には、職員がフォローし、良い関係が築いていけるように、努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も病院入院中であれば、見舞いに行く職員も多い。地域で家族に会えば、挨拶をし、相談されれば応じている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換はもちろん、日々の関わりの中で得た情報を申し送りノートやアセスメント表に記録して、皆で共有している。自分の思いが離せない方は、家族に聞いたり、何がその方にとって一番良い事かを話し合いながら、ケアに生かしている。 (外部評価) 介護計画作成前には、「困っていること・希望や夢」等についての情報を得ることに努めておられる。利用者ご本人からの聞き取りが難しかったり、ご家族も、利用者のお若い頃のことを知らないような場合もあり、友人の方が来られた時にお聞きしたり、「職員が利用者にとってよいと思うこと」の視点から考えるようにされている。	管理者は、「利用者の輝ける暮らし」を支援するため、個々の生活歴を知ることが大事と考えておられる。さらに、利用者がどのような人とつながり暮らしてきたか、又、馴染みの場所等、いろいろな情報を得ることに取り組み、個々が最期まで自分らしく暮らせるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントは勿論、入居後も知り得た情報は、個別の記録に記入したり、カンファレンスで話あっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方はどの方も大体同じだが、その中で休息の時間・散歩の時間等の個別性もあり、対応している。一般状態の観察・会話・バイタル測定等からスタッフ全員で、今の利用者個々の心身の状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の意見・要望等を聴きながら、職員全員で意見を出し合い、ADL等も検討しながら、アセスメント・モニタリングを基に、利用者を多方面から見つめ、今その方に一番良いであろうと思われる計画を立案している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の支援内容をより具体的に決めて、実行できるような仕組みをつくり、さらにケア記録と連動させており、毎月、モニタリングをまとめ、3ヶ月ごとの見直しにつなげておられる。介護計画作成時には、ご家族に電話等で連絡を取り、ケアへの希望や要望がないかうかがい、反映できるよう取り組まれている。ご家族は「今のまま元気でいてほしい」等の声が多く、具体的な要望はあまり出されないようだ。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者との会話や対応等を記録出来る者も増えてきた。文章の内容はまだまだであるが、記録がケアや事故防止に役立つという意識ももてるようになってきている。まだ職員個々のレベルには差があるので、勉強が必要。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>出来るだけ、柔軟な姿勢で対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の理・美容院の利用、消防署の協力を得ての訓練等を行えている。以前音楽の先生をされていた方が、月に一回演奏したり、歌と一緒に歌いに来てくださるが、まだまだ地域資源の把握・活用は出来ていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で、入居前からのかかりつけ医が良いと言われる方には、継続して受診援助を行っている。そうでない方には、近くの医院に協力を仰いでおり、体調不良の相談・受診を行い、異常時には、休日受診・夜間の受診にも対応して頂いている。	
			(外部評価) 町内の病院受診は職員が同行し、町外の受診時はご家族に協力をお願いされている。ご家族の都合によっては職員が支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協働出来ており、日々情報を共有して、異常の早期発見・健康管理に努めている。疾患・症状等の相談もあり、薬の副作用等についても助言・指導している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関との連絡を取り、退院間際には、カンファにも参加し、入院中および退院に向けての支援を行っている。又入院中は度々面会に行き、本人・家族との信頼関係、病院関係者との関係作りに努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームの指針を書簡にして、入居時に利用者・家族に同意を得ている。家族には、今の状態を出来るだけ頻回に連絡し、重度化した場合は、ホームでどれだけできるかを話している。昨年一人看取りを行った。これからも状況により、行っていく考えであり、職員も前向きにとらえている。	
			(外部評価) 昨年7月、事業所で初めて看取りを支援した事例がある。利用者は、「検査が怖い」「点滴はつらい」等とおられた方でもあり、ご家族との相談で自然な最期を迎えられるよう支援することを決められた。終末期、医師からご家族に説明があり、職員も同席して、「食事ができるうちはホームで見る」ことになり、ご家族も泊まる等してともに看られ、ご家族が見守る中で亡くなられた。職員は不安もあったが、支援後の職員カンファレンス時には、「支援できてよかった」と感想を話されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルは作成している。救命救急訓練も行っているが、実践力はどうと問題がある。繰り返しての訓練が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・地震等を想定した避難訓練を実施しているが、回数が少なく繰り返し行わないといけない。災害時の水・乾パン等は準備している。	
			(外部評価) 年間では、消防署の協力を得て火災を想定した避難訓練を1回と、津波を想定した訓練を1回行っておられる。事業所地区は自主防災の機能が不十分のようで、避難場所についても現在検討しているところである。	事業所は津波被害が心配される地区でもあり、又、利用者の状態等も踏まえると、早急な体制の準備が求められる。高齢者の多い地域でもあり、事業所のノウハウ等を提供しながら、地域の方達と安全・安心に向けた仕組みをつくっていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度に注意し、プライバシーの確保にも心掛けている。利用者一人一人の性格・生活歴等も対応には必要であり、情報は共有するように努めている。ただ親しくなったために、言葉使いが？と思う場面もある。	
			(外部評価) 月ごとに行う誕生会時には、「ケーキより和菓子の方がよい」と言われる方には希望に沿って準備されている。入浴後の着替えを利用者が選べるよう、支援しているケースもある。職員は方言を交えて会話したり、親しみを持ってかかわっているが、時には配慮が必要と感じるような対応等もみられる。又、居室や車いすに準備している排泄用品の取り扱い等についても、配慮できることはないだろうか。	この機会を活かし、利用者の立場に立って、職員の言葉かけや対応について利用者主体のケアを実践できているか、点検してはどうだろうか。職員自身が気付くことはケア改善への最大の起点にもなる。改善への取り組みは、運営推進会議やご家族にも伝えて、モニタリングしてもらってはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が思いや希望が言える様な関係作りに努めている。言葉として意思表示が出来ない方もいる。表情や動作から気持ちをくみ取るように努めている。自己決定に於いても、出来ない方は家族に伺ったり、職員がその方にとって、ベストであろうと思う事を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員・事業所の決めた流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、朝ゆっくりと眠る人もいれば、散髪に行きたいと言われ、空いていればお連れする時もある。出来るだけ本人の望みが優先出来るように、声掛けなどを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿った衣類の選択や、理美容院への外出、化粧品等の購入等の支援を行っている。またご自分でできない方の爪切りや整髪にも注意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 状態に合わせたお手伝いをお願いしているが、台拭きを行う程度である。おやつレク等では一緒に焼いたり、混ぜたりされる事もある。食事形態は、状態に合わせて、粥・トロミ・刻み・ミキサー等の工夫をして、安全に食事が摂れるように介助している。 (外部評価) 居間のホワイトボードには職員が昼・夕食のメニューを書いており、時には話題にされている。利用者に「何が食べたい？」と聞くと「何でもいいよ」との答えが多いようで、職員がスーパーに買い出しに行き食事をつくっている。食事は、職員も一緒に同じテーブルを囲み、同じものを食べておられ、利用者は個々に「おいしいな」と言いながら食べておられた。今年度の計画として、年に2回「おやつレク」を行うことを決めておられる。食事作りに利用者がかかわることは、現在はないようだが、おやつにたこ焼きやクレープを作る時には、利用者が職員の手伝いをされるようだ。	この機会を活かして、食事支援が利用者主体の取り組みになっているか、ということを確認する機会にしてはどうだろうか。利用者が食事を楽しめるような支援に向けて、職員のかかわり方や利用者の持っている力を活かした支援等、さらに工夫できることはないだろうか。職員で話し合ってみてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の形態や時間に於いても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を職員は理解・注意し、摂取出来る様に工夫・声掛けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉・他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科医の受診を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、個々に応じたトイレの声掛け、パットの種類の変更を行っている。又オムツ対応の方であっても、便意のある方には、トイレ誘導にて、排泄して頂いている。	
			(外部評価) 排泄記録をつけ、トイレで排泄できるような支援に努めておられる。ご自分でパットを交換する方は、洋服のポケットに排泄用品を入れている方もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあるが、食事内容の工夫をしたり、水分摂取・牛乳飲用を勧めるなどで、薬だけに頼らないように努めている。また散歩や腹部マッサージ等も行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 身体状況が低下されている方は、2回/週を基本とし、他の方は1回/2日の入浴を行っている。拒否される方もいるが、無理強いはずせず、入浴事態が嫌にならない様に気をつけている。入所時に入浴拒否の方が、最近職員と温泉にもいかれた。また入浴前には、必ずバイタル測定をし、安全に入浴出来る様に注意している。	
			(外部評価) 2ユニットとも浴室にはリフトが設置されており、浴槽をまたぐことができる自立度の高い方以外が利用されている。入居時点、長期間入浴していない状態の方がおり、入浴を強く拒んでいたが、職員は、何度も繰り返し入浴に誘い、足浴から始めて入浴につなげ、温泉に出かけ楽しめるようになったような事例がある。利用者はおもとお風呂好きの方でもあり、ご家族もたいへん喜ばれた。支援の成功例を職員で共有して、皆で試しながら支援に取り組まれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の心身の状態を把握し、寝具の種類や部屋の明るさ等を配慮し、気持ち良く眠られる様に配慮している。日中も休みたい方は、居室やソファで休まれ、意思を伝えられない方には、職員が誘導し休息して頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬効や副作用を理解し、投薬時には、名前・日付・時間(朝昼夜等)の再三の確認をし、服薬介助を行っている。薬効等の理解の為に、説明書を保管している。薬の変更等は、受診ノートに記入し、情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた手伝いをして頂いている。希望される食べ物は家族と相談し、購入している。創作活動や、歌をうたったり、ドライブに行ったりと気分転換を図り、少しでも喜びのある日々を送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別またはグループでの外出支援を行っている。買い物・花見・ドライブ・外食・水族館見学・温泉等々、個々の状況や希望に応じた外出の支援を行っている。家族様の協力を得る方もおり、嬉しそうな様子で出かけられる。 (外部評価) 今年度から外出支援に力を入れており、事業所全体での外出や利用者個別の外出計画を立て取り組みをすすめておられる。利用者によっては、お好きなカラオケにご夫婦で出かけられるよう支援している事例もある。又、化粧品や洋服を買いに個別に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方がお金を持っていたり、事務所預かりにしている。預かりの分には、出納帳をつけ必要時に見せている。お金の所持や使用の大切さを入居者が理解しているかという...難しい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りができる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご家族の協力を得て、スロープや玄関には季節の花を飾っている。リビングには、行事の写真を掲示し、季節の壁画を飾っている。音や匂いで不快にならないように注意している。南向きに大きな窓があり、陽射しは十分に入り、風も気持ちよく通っている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓辺には、笹飾りが飾られており、職員が代筆して「おいしいものが食べたい」「元気で過ごしたい」等、利用者の願いを書いた短冊が吊るされていた。利用者個々に居場所があり、ソファの座る位置が決まっている方や、自室前に椅子を置いて、ティッシュの箱や置き時計、うちわやごみ箱を置き、ご自分のスペースをつくり雑誌を見て過ごしている方もみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有空間の中で、独りになる事は難しい。リビングではそれぞれの居場所が出来ており、気の合った方同志でお話をされている。又、レク・リハ・食事等での席や位置にも配慮し、トラブル無く過ごせる様に努めている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の備付品は、ベッド・エアコン・カーテンであり、他は自宅から使い慣れた物や愛着のある物を持って来られている。個々の居室はそれぞれタンスや家族の写真・仏壇等があり、在宅からの生活が出来ただけ継続し、安心して暮らして頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 職員からの依頼で、夏祭りの参加者にプレゼントするアクリル毛糸たわしをつくっている利用者がおられた。新しく入居された方は、ベッドに腰掛け、居室の扉を開けたまま、テレビを楽しんだり、居間の様子をうかがったりされていた。職員も時々声をかけて様子を見ておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 建物内部はバリアフリーで手摺を設置している。自力歩行の方や手引き歩行の方が利用され、トイレ内部にも設置し、安全に利用できるように配慮している。又浴室・トイレには呼び出しブザーも設置している。居室入口には名前だけでなく、写真や折り紙等を飾り、ご自分の居室とわかる様に配慮している。</p>	